

やかもち便り

編集・発行
自衛官守る会
〒532-0011
大阪市西中島6丁目
3番24号D426
発行日 2019年9月4日
題字 小笠原 理恵

六回目の請願提出が完了しました

第198回国会に今年度も「緊急出動のある自衛官の官舎の改善に関する請願」が提出され各々の委員会に付託されたことをご報告申し上げます。皆様のご協力とご支援に、心より御礼申し上げます。

衆議院では紹介議員8名で署名数1801名、参議院では紹介議員3名で署名数709名となりました。署名数紹介議員ともに昨年より増加しました。



同じ内容で繰り返して毎年請願を続けることがもつとも政策に反映されやすいという有識者のご助言を受けて続けてまいりましたが、本年度は具体的な成果が上がった年となりました。

自衛官支援議連誕生

前年度の会報でご報告申し上げたとおり、自民党に自衛官支援議連が誕生し

様々な提言を出してくださいました。そこで当会も自衛官の待遇改善に積極的な議員の先生方へ私共の知っている情報と先生方の知っている情報を交換する会を企画しました。

平成三十年十一月十六日、衆議院第一議員会館内の会議室においてこのような小さな会の会合に、防衛副大臣原田憲治先生をはじめ、元防衛大臣中谷元先生、衆議院議員小田原潔先生、大西宏幸先生、平野達男先生、石崎徹先生など6人の現職国会議員のご参加がありました。また30名近い代理の方のご出席をいただきました。

自民党の国会議員の先生方が自衛官の待遇問題に対して強い関心を持ち、この問題に対して情報を集めたいと考えていることがわかりとても頼もしく思いました。

日刊SPA! 正論、ウィル等

メディア掲載

自衛隊の職場の環境や法令、自衛官の待遇問題を多くの人に知ってもらいたい、改

善の世論を高めたいと雑誌への寄稿はさらに範囲が広がりました。

昨年度から続いている日刊SPA!の「自衛隊のできないこと」シリーズはすでに掲載五十回を超えています。九月には単行本として刊行される予定です。合わせて月刊正論や月刊ウィルにも自衛隊の問題について、会長小笠原理恵が執筆させていただいております。

また、当会の顧問である星山良一も月刊正論にて兵站（ロジステイクス）問題についての寄稿しております。

紹介議員でもあり、自衛官の待遇問題に積極的に最初から動いてくださっている中谷元防衛大臣から、「自衛官の職場の待遇問題への情報提供や問題点を多くの人に理解してもらう活動はありがたい」とお褒めの言葉を頂きました。

防衛大綱に

自衛隊の待遇改善が明記

会員の皆様にもお知らせしたいことは、防衛大綱と自民党の活動方針に「自衛隊の待遇改善」の文言が入ったことです。

多くの国会議員の先生方が問題を理解しようと集まってくくださるようになったのも、皆様が署名を一つ一つ集め、会の活動のために会費を送ってくださったからです。ありがとうございます。

自衛官の日用品購入の

補正予算がつく

自衛官の職場環境の経費自己負担の現状をもつとも象徴的に表していたもの

は「トイレットペーパー自腹」問題です。この件については、とうとう安倍総理が問題を認め対処すると回答しました。その後補正予算が付き、トイレットペーパーなどを含む日用品の予算が劇的に改善いたしました。少額ですが、具体的に予算に反映できたことは、当会の活動での「勝利」です。会が発足して五年、地道な自衛官の待遇改善をお願いする活動が実を結びつつある時期です。議員会館での情報交換会もできれば続けていきたいと考えております。

年会費一律五千円値上げのお願い

自衛官のために連携して活動していただける国会議員の数が増えるにともない、会の活動範囲が大きくなりました。具体的な成果が上がっている今こそ、さらにしっかりとした広報活動や陳情、情報収集をしていかなければならないと考えております。そこで会員の皆様には申し上げにくいのですが、年会費の値上げをさせていただきますと思います。

国会議員の賛助会員も増え、これまで赤字を役員が埋める形で成り立っていた当会の台所事情には不安があります。その事情を今年度の総会に諮り、今年度から会費を年五千円に値上げすることが承認されました。値上げにともないその金額では難しいという方のために、寄付サイトを作りました。賛助

会員としてではなく寄付だけにしたいという方は、こちらで応援いただけばと思います。



守る会寄付サイト

次回、署名の締め切りは

令和二年一月末日

さて、自衛官守る会は「緊急出動のある自衛官の官舎の改善に関する請願」の署名を令和二年一月末日締め切りで集めます。そして二月に集計を終え、国会議員会館に衆参両院の紹介議員の先生を訪ね、自衛官の内情をお話ししながらお渡しいたします。今年度はすで多数の新しい紹介議員になっていただけそうな先生方がいます。多くの署名をぜひ国会に届け、日用品だけでなく自衛官の給与や法律上の諸問題及び補償に係る問題など、一つでも多くの待遇改善がかなうよう議場へ上げていただけるようお願いしていき所存です。

年会費値上げのお願いは大変心苦しいですが、どうか今年度も自衛官守る会をご支援いただきますよう、何卒よろしくお願いいたします。

●自衛官守る会の署名の締め切りは

令和二年一月末日です。

●自衛官守る会のサイトはこちらです。

<http://yakamochi.org/>

●「寄付だけなら協力できます」という

声にお応えして、寄付サイトを開設しました。

<https://secure.koetodoke.jp/form.php?to=29>

※クレジットカードもご利用頂けます。

請願内容

<http://yakamochi.org/seigan.html>

署名用紙のダウンロード

<http://yakamochi.org/newsletter/20149mamorukai.pdf>

署名送付先

「自衛官守る会」事務局

〒532 0011

大阪市淀川区西中島 6丁目3番24号

D 426

波濤をこえて、第三回

正会員 星山 良一(元海上自衛官)



「船(みよし)に砕くる青き波」

(防衛大学校追遥歌二番)

名札に緑色の学年識別色と海上要員を表す紫色が付き、ようやく二学年に進級して下級生ができたことと喜ぶ間も無く、カッター訓練が始まった。カッターとは長さ九メートル、重さ一・五トン、最大四十五名を乗せられる木製ボートで、帝国海軍では救命艇や交通艇として艦船に搭載されていた。このボートを使って海

最初は百回か、ひよつとして二百回かな。」という期待は、簡単に裏切られる。「始め。」の号令で腕立てを始めるが、回数に分からない。「あ、こめーん、言うの忘れてたわ。回数はナンボでもええけど、今から三十分な。ほな、休むなよ。」

またもや関西弁である。絶対に殺す。たぶん、みんなも同じ気持ちのはずだ。同県人の同期を見ると、怒りに震えているではないか。「分かる、分かるぞー！」

だが、ひたすら耐えるしかないのだ。四年生になつたら、関西弁を喋る下級生を、ぐりぐりと締め上げることを夢見て。

体力と暇のある人は、ぜひ腕立て伏せを五分くらいやってみたらいいと思う。百回の腕立てなんて、ものの数分で終わる。十、十五分までは、なんと頑張れる。しかし十五分を過ぎる頃、まだ半分しか終わってないと思つた瞬間、精神が崩壊しそうになるのだ。腕も腰も足も、

体中の筋肉が悲鳴を上げ、休ませると暴れる。ちらりと横の同期を見ると、苦悶の表情を浮かべて呻いている。「あれー？皆さん、どないしたん？まだ、半分しか終わってまへんでー。」陸トレ担当の、

忌々しい関西弁をしゃべる大阪人だ。「この関西弁野郎め！今すぐ殺す、絶対に殺す！」という激しい殺意がわくもの、

手足で身体を支える四点支持のまま悶絶している身には、しよせん不可能な話だ。陸トレでは腹筋も鍛えるのだが、これも回数ではないし、しかも分単位の時間でもない。「よし、今から十七時半まで腹筋始め！」と号令がかかり、反射的に腹筋を始めるのだが、腕時計を見

ると十六時を少し過ぎたところである。「えつ、三十分か？ラッキー♪」と思つてしまふが、頭が腹筋を一時半続けるという理不尽な現実を受け入れられないのだ。あり得ない事象を目の前にした人間は、そんなはずはないと正常な判断ができなくなる。これを正常性バイアスと言うが、社会心理学を体験的に学習できるという、実に親切な学校である。こうやって体力の限界と諦観の境地に達するといふ、山伏や苦行僧も裸足で逃げ出しそうな訓練を一月ちよつと続けるのだ。お尻の皮がむけて出血するため、薬局にナプキンを買に行くのだが、女性の大変さの一端が分かったような気がした。

カッター訓練を乗り切ると、上級生の仲間入りができたような気になる。一学年を「奴隷」、二学年を「平民」、三学年を「貴族」、そして四学年を「王様」と呼んでいた。奴隷から脱出できてもまだ平民の地位なので、王侯貴族を夢見ながらもう一年頑張らなくてはならないのだ。一学年生の間に、要領と体力だけは身につけているので、学生舎生活自体には余裕がある。またクラブ活動も面白くなり始める頃だ。私はヨット部小型(二人乗りのヨット)に入っていたが、同期が少なかつたこともあり、通常は三学年からやるスキッパー(艇長)を二学年

になった二か月後からさせてもらった。ヨットというと、優雅なスポーツというイメージがあるかもしれないが、はつきり言って浜乞食と変わらぬ粗末な身なりで船に乗り、レース中は相手の船を罵り

まくるといふ世界である。特に、学連（笑）。そうやって小突いていたクルーが、加盟体育会系のヨット部はひどいものだ。スキッパーがクルーを怒鳴り散らし、小突き回すのも小型ヨットの醍醐味だ

（笑）。そうやって小突いていたクルーが、数年前に陸上自衛隊第〇師団長になつていたのには驚いた（実話）。夏休み前の定期訓練では初の乗艦実習

があり、横須賀から大湊、新潟、舞鶴そして呉へと約二週間ちよつとの航海だった。「いそなみ」という元護衛艦だった練習艦に乗つたが、長さ一〇九メートル、

自衛官待遇改善のためにともに頑張りましょう

「自衛官守る会」の皆さんの活動は、自衛官の待遇改善への大きな力です。心から感謝申し上げます。待遇改善の交渉力を現役自衛官はもつておらず、組合もありません。国民の皆さんの率直な声や要望が何よりの支えです。

自衛官には任務遂行のための厳しい訓練が課されています。心と体を鍛えるだけでなく、集団生活に慣れなくては勤まりません。教育中や訓練中は家が恋しくなつても帰れません。不自由な生活です。その訓練で成長し、強靱な心と体をもつ精悍な自衛官になりま

す。厳しい訓練で助け合い、励まし合つた絆は強靱です。これまでの友人関係とはまるで別の深く強い信頼関係となります。その強い絆は自衛官の職務を通じて、日本国内だけでなく遠い海外の赴任地まで広がります。不眠不休の災害派遣は疲れ果てる仕事です。しかし、多くの被災者から「ありがとう」、「自衛隊が来てくれたから生き延びた。家族が助かった」と手紙を頂きます。その言葉は厳しい任務を乗り越えた勲章です。



自由民主党衆議院議員
プロフィール
中谷 元
文元防衛大臣
党憲法改正推進本部長代行

「自衛官守る会」は継続的に地道に自衛官の待遇改善に対して活動をしてくる貴重な会だと思えます。自衛官の現状についての様々な問題点を拾い集め、世間にアピールしていただけることはありがたいと感じます。経費や勤務時間などの職場周りの様々な問題を提起してくれれます。さらに、政治家にも勉強会で情報提供してくれれます。

防衛大綱にも、自民党の活動方針にも「自衛官の待遇改善」の文言が入りました。これは、「自衛官守る会」からの要望を自民党国防部会で取りあげたものです。防衛大綱への提言の中で、具体的に私たちが要望を上げておきました。

今後共、我々政治家もこの問題は全力で考えてまいります。「自衛官の待遇改善」のために全力でともに頑張りましょう。「自衛官守る会」の会員の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

基準排水量一七〇〇トン、三インチ連装砲三基、ヘッジホッグや爆雷投射機など、今から見ると第二次世界大戦を想起させるような小さな旧式艦で、夏は暖房、冬には冷房という季節感溢れる艦であった。外洋でがぶられ、ゲロゲロになった思い出深い船でもある。それでも、良く晴れた夜中に見る満天の星空や、初めて見るトビウオ、夜光虫が輝く航跡などを見ながら、船乗りという男のロマンを感じたものだ。

冬になると、スキー訓練が妙高高原の旅館をベースに行われ、陸上自衛隊のスキーの名人たちが教官として手取り足取り教えてくれ、初心者でもクループボーゲンかパラレルができるようになる。二等陸曹という部隊では中核となる彼らは、将来自分の上司になるであろう学生に対して、言葉遣いは丁寧だが鍛え方は半端なく厳しかった。しかし、窮屈な学生生活から離れた同期生だけの訓練であり、一週間があつという間に終わった楽しい合宿だった。そしてようやく春が巡り、めでたく貴族の位に列せられる三学年が訪れる。

（つづく）

書店にて絶賛発売中

自衛隊員は
基地のトイレトペーパーを
「自腹」で買う

小笠原理恵
Rie Ogisawara

予算不足で
隊員も制服も
装備も弾薬も
足りない!

東日本大震災支援活動が私と自衛隊の馴れ初めでした

正会員 東京都 井上義朋さん

私と自衛隊の馴れ初めは、二〇一一年の東日本大震災の被災地支援活動に遡ります。

当時、青年会議所なる団体に所属していた私は、震災直後に被災地に入り、宮城県石巻市において避難所に入れない方々に生活物資を配給する活動に従事していました。その際、東京から搬入される物資に不足が生じると、石巻市総合運動場に駐留していた陸自第六師団の派遣部隊から物資の提供を受けていました。食糧品、衣類、日用雑貨、生理・衛生用品のほか、スコップやネコ車など復旧作業に必要な物品、さらにはトラックを動かす軽油に至るまで、ホームセンター並みの豊富な品揃えで様々な物資を提供していただきました。まさに「ザ・兵站戦」といった趣でしたが、行政の支援には必ず穴があるもので、それを補完すべく民間の我々が「鼠輸送」の一端を負っていたところでしょうか。

ちなみに、女性の生理用品の扱いを巡り、屈強髭面の隊員さんに「どれを積めば良いですかね?」と何気なく質問したところ、「自分も経験がありませんので」と真顔で返された



陸上自衛隊 HP より

一幕は、未だに我々の間で笑いのネタになつています。(真面目なんだなあ...)

一方、支援活動を通じて気になった点があり、当時の菅内閣による自衛隊の「便利屋扱い」でした。日和山の拠点で我々が食事をしていると、至る所からハエが群がってくる始末。腐敗臭が酷く、いざいざ大規模な防疫が必要になるだろうと思つていましたが、政府はその任を自衛隊に担わせたのです。公共性、緊急性はともかく、非代替性という災害派遣の実施要件を無視した民業圧迫であると感じたものです。災害派遣で自衛隊の活躍が報じられる度に、今もそのことが思い出されます。

さて、私が本会の趣旨に賛同したのはこの「ザ・兵站戦」の体験が背景にあります。飲み屋で陸海空の装備の話をするものならドン引きされ、確実に「好戦的な奴」「軍事オタク」扱いされますが、ロジスティクスの話は思想やイデオロギーの境なく、等身大の共感を呼ぶようです。共感なきところに理解は深まりません。常々思うことですが、国防に携わる方々とそこご家族の生活を守れない国民に、国民の生命と財産を守れることとはできないのではないのでしょうか。二〇〇八年以降の充足率の低下もそのことと無関係ではないと思います。私にできることには限りがありますが、せめて民間の立場から小さな共感を生み出す一端を担え

れば幸いと考えます。

当会の紹介議員のご紹介

当会の活動にご賛同頂き、紹介議員として請願を国会に届けて頂いている先生方をご紹介します。

198国会で当会の活動である「緊急出動のある自衛官の官舎の改善に関する請願」の趣旨にご賛同頂いた紹介議員の皆様のお名前をご紹介します。

衆議院議員

- 大西 宏幸 先生
- 神谷 昇 先生
- 中谷 真一 先生
- 高村 正大 先生
- 中谷 元 先生
- 小田原 潔 先生
- 西村 明宏 先生
- 宮川 典子 先生

参議院議員

- 朝日 健太郎 先生
- 和田 政宗 先生
- 末松 信介 先生

衆議院では署名数1801名で安全保障委員会に付託され審議未了に終わっています。

参議院では署名数709名で外交防衛委員会に付託されやはり審議未了で終わっています。

当会の主張した自衛官への経費自腹問題に防衛省予算の概算要求で、隊員の生活・勤務環境改善のための備品や日用品等の整備で24億円、隊員が土気高く任務に専念できるよう、老朽化した生活・勤務用備品の更新や日用品等を整備に対して環境改善のための自衛隊施設の整備で586億円が計上されています。

予算も計上されたことすし、令和二年の国会では衆参両院で採択される夢をみましよう!

署名にご協力いただいた多くの皆様と紹介議員の先生方に感謝いたします。来年1月も署名の協力をよろしくお願ひします。小さいことかもしれませんが、一つでも多くの自衛官の待遇の改善の実績を皆さんと積み上げていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

自衛官守る会の会員の皆様へ

当会の情報交換会や様々な活動を見学されたい方はメールで応募ください。ご案内を送ります。楽しく学びましょう。

*

編集後記

今回で「やかもち便り」も五号となりました。会員の皆様のご協力と紹介議員の先生方のお力添えで、少しずつ成果が見えてきています。近道はありませんので着実にいきます。(編集・写真 石田)